

水処理技術特集

イチキコーポレーション

無機質で水質改善と節水

ゆうゆうシステム主力に

環境浄化を最優先に「自然と水の健康」を追求し、水冷却塔の冷却水浄化方法や装置開発に取り組みイチキコ

ーポレーション(社長 添田 美明氏、本社・大阪府枚方市 樟葉朝日1-7-4)。同社は冷却水浄化システム「ゆう

ゆうシステム」を主力に、無機質成分による水質改善と節水を提案している。ゆうゆうシステムは薬剤を



添田 美明社長

投入する従来の水処理方法と一線を画し、ケイ素やナトリウムなどを主成分とする小粒の「ゆうゆうボール」を使用。これにより水中のイオンバランスを調整し水質浄化を実現するシステム。レジオネラ菌やスケール、さびなどを抑制するほか、薬品による弊害やCO₂の排出を抑え、環境負荷の軽減を図ることができ。また冷却水の節水効果

果が得られることから、現在、大手流通チェーン店やメーカー系工場などで広く利用されている。

ゆうゆうボールは同社が8年越しに試作を繰り返して、2005年から主力製品として本格導入している。ドッグフード程度の小粒なボールで種類は10アイテム。無機質を基本とし、中には銀イオンや銅イオンを含んでいるボールもある。

ボールごとに効果が異なる

り、ユーザーの用途に応じてこれらのボールを組み合わせて、使用する。冷却水に投入し水中のカルシウムやマグネシウムと反応させることで熱

交換器のスケール障害を防止したり、銀イオンがもたらす抗菌効果でレジオネラ菌やスライムを抑制したりする効果が得られる。

添田社長は「空調用冷却水処理で用いる薬品は有機質の物が以前から気になっていた。当社は無機質の物にこだわ。医学に例えると、薬

品使用の水質浄化は西洋医学的な発想だが、ゆうゆうシステムは東洋医学、つまり漢方薬のような効果を求める発想」と話している。

ボールの効能は四カ月持続するためメンテナンスが容易で経済的。同社がクーリングタワーを使用して実施した調査結果では、薬品使用の水処

理と比較しオーバーフロー水量が半減するなど節水効果が表れている。